

【大館市】
校務DX計画

秋田県では、校務のデジタル化により教職員の働き方改革を進めることで、児童生徒一人一人に向き合う時間を確保するとともに、介護や子育て中の教職員の働き方を柔軟化し負担を軽減することを目指し、令和5年度、フルクラウド型の秋田県小中学校等統合型校務支援システムを構築しました。県域で統一したシステムを、将来的には全市町村で導入する予定になっています。

大館市は、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、このシステムを令和7年9月から導入することとしており、システムの活用において、保護者連絡システムでの欠席等情報や、学校等欠席者・感染症情報システム等とのデータ連携により、手入力作業の大幅な削減に取り組みます。

学習者用端末においては学習振り返り支援ツールを利用し、そのデータを校務支援システムに連携させることにより、校務系・学習系データの統合と可視化による業務の高度化を図ります。これを契機に紙ベースの業務見直しや、FAXでのやり取り・押印の見直しを推進します。

多要素認証等の強固なアクセス制御を前提としたセキュリティ対策の下、パブリッククラウド上のシステム活用により、ロケーションフリーでの柔軟な働き方の実現が可能となるようルールを見直します。

また、県共通テナントでのアカウント利用により、汎用クラウドツールの共通化が可能となるため、学校関係者のコミュニケーションの活性化を図ります。

校務支援システムの活用により、有事の際でも、教職員・児童生徒の安否確認、オンライン授業で学びを継続させる等、優先度の高い業務の継続性を担保します。